

頸損解体新書の発行へ向けて準備しています

全国頸髄損傷者連絡会では、1991年2008年に頸髄損傷者へ向けたアンケートを行い、自立生活や社会参加の実態を頸損解体新書という形で報告してきました。前回の調査から10年が経過し、頸損者の生活実態も変化しています。

2020年1月にアンケートを実施いたしますので、会員のみなさまはもちろんお知り合いにも紹介していただき、できるだけ多くの頸損者の実態をデータに残しましょう。

今後のスケジュール

- 2020年1月 アンケート実施
- 3月 中間報告
- 4～10月 報告会・セミナー
- 2021年1月 最終報告書発送

頸髄損傷者の生活実態の把握を目的とした包括的な調査をこれまでに2回行ってきました。2回目の調査は1回目の調査から18年が経過しており、その間の頸髄損傷者の生活実態の把握にとどまらず、障害者を取り巻く社会情勢の変化も明らかにすることができる貴重な資料となりました。この調査報告を参考にし、自立生活を実現した頸髄損傷者も数多くいます。

既に、2回目の調査からの10年が経過し、調査時と比べ社会参加する障害者はさらに増加し、社会活動における障害者の権利に関する法制度が施行されています（障害者雇用促進法の改正、障害者差別解消法など）。これらは、頸髄損傷者の就労や合理的配慮に変化を及ぼしました。この10年間で特に大きな変化のあった、福祉機器やICT機器、医療の技術革新は、地域生活を送る頸髄損傷者の生活を快適・便利なものにしています。また東京オリパラ2020に向けて、さらに進化しようと社会全体の動きがあります。一方、2011年の東日本大震災、その後の多くの自然災害は、障害者に大きな被害を及ぼしました。災害時要援護者の避難体制、災害時の対応に対する議論が行われていますが、安心できる状況にはなっていません。このような時代の変化を頸髄損傷者の生活実態から把握することと、これまでの2回の調査項目と比較して社会状況を把握することが、今後の頸髄損傷者や障害者の生活にとって、重要かつ必要と考えています。